

■東北地方太平洋沖地震 千葉県浦安市（28秒）-映像解説-

<映像の概要>

映像は、地震発生の直後の、千葉県浦安市のまちの状況です。

液状化現象により地下の水がふき出て、住宅地にどろがあふれている様子がわかります。

<災害の概要>

- 平成23年（2011年）3月11日（金）、午後2時46分、三陸沖を震源とする東北地方太平洋沖地震が起きました。揺れの強さを示す「震度」はもっとも強かったところで7、地震の大きさを示す「マグニチュード」は9.0となりました。

これは、これまでに日本国内で観測された中で最大です。

この地震は、大津波や余震をともない、東北地方から関東地方にかけて、大規模で深刻な災害をもたらしました。

多くの人が犠牲になり、家や仕事を失い、また漁場や農地が打撃を受けました。

この地震により亡くなった人、行方が分からなくなった人は19,578人（消防庁公式サイト「被害報」より、平成23年11月30日現在）とされていますが、その9割以上は津波によるものです。

津波は北海道から沖縄まで全国の海岸で観測されました。特に岩手県、宮城県、福島県の沿岸部では多くの人が津波にのまれ、建物が流されるというたいへんな被害をもたらしました。

また、福島県双葉郡にある東京電力福島第一原子力発電所が、この地震および津波により大きな被害を受けました。

これにより重大な原子力事故が起き、放射性物質が大気中に放出されたため、被災地をはじめ、広い地域にわたって生活に影響をもたらしています。

さらに、関東・東北地方で地面の液状化現象が発生し、千葉県、東京都といった東京湾沿岸を中心に大きな被害がありました。

いっぽうで防災や、被害を受けたあとの対策の大切さがあらためて見直されました。また、平成7年（1995年）の阪神大震災をきっかけに広まった「災害ボランティア」の活躍や、それを支援する動きが見られました。

- 液状化現象とは、地震により地面が強く揺らされると地面が液体のようになる現象です。

その結果、水があふれて道路や地面が沈下したり、建物や電柱、標識などが倒れたり、傾いたり、マンホールなど地面の中に埋まっているものが地上に浮き出てくるといったことが起き、生活に大きな影響をもたらします。

東北地方太平洋沖地震では、関東・東北地方で液状化現象が発生し、千葉県、東京都といった東京湾沿岸などで、大きな被害がありました。

震度5強の揺れにともない、千葉県沿岸部、特に浦安市で液状化現象が発生しました。

地面がくずれて建物が傾く、長期間にわたって水道などが使えなくなるといった被害がありました。

<映像の流れ>

映像は以下の流れのとおりです。

見出し	内容
泥水があふれている住宅地 (00:00～ 00:28 付近)	住宅地の玄関前や駐車場にどろのまじった水があふれている様子を見ることができます。家の前の道もすっかりどろにおおわれています。